

くないだ。」と言う人も……。これからの日本農業、一体全体どうなる事やら案じられますが、でも、そうも言ってはおれませんが、皆様のお蔭を持ちまして当選させて頂きました。頑張ります。これからも応援の程、よろしくお願いします。

農業委員として

足立 義明



この度、神谷博文さんの後任として、農協より組織推薦を戴き、

お引き受け致しました。農地を保全し、食料の生産・増強を図るため、担い手農家の育成や集落営農組織の支援等を行うことは、住民に安全で安心な食糧を生産・安定供給するために必要不可欠であります。

さらには、最近政府関係者が食料自給率50%を目標にした対策を検討しています。それらの政策が具体的にどのような形で農地や農家に間接的がでてくるのか、今後の課題として大きな影響があると思われます。それらの環境の中で、地域の農業をどのようにしていくのか大いに関わっていく所存です。

農業委員の役割が

最も重要な時期

北村 凱男



この度、鳥取東部農業共済組合の組織代表として岩美町農業委員

会の一員に加わり、岩美町の農業振興に参与することになりました。

農村、農業を取り巻く環境は年を経るごとに変化し、その速度は従来と比べ物にならない程度速く、生産技術も経営感覚も追従出来なくなっています。

地球温暖化と表現されている環境の変化は食糧生産に偏りが起こり、不足と過剰の中で配分の仕組みをどのようにするかをめぐってWTO交渉は決裂し、課題が先送りされたに過ぎない結果となりましたが、国内農業が大きな試練と対峙しなければならぬことは避けて通れるものではないと云うまでもありません。

減少し続けている米の消費に、やや歯止めがかかっているのも、資源を持たない日本が世界的にその資源配分の陰に存在する結果になっている現状の表れであることは云うまでもありません。

今年の米作りは五年振りに平年作を上回りそうでありますが、手放しで喜んでいられる状況ではありません。米制度改革の中で一番わけのわからない集荷円消化事業が発動されないならば、より一層の農協離れが農

家に広がり、組織力は弱体化することでしょう。

農村には疲弊感が広がり、農業は利益を生み出さず、農地の荒廃は更に進むことになると考えられます。

岩美町の八百ヘクタールの耕地を百%以上活用するための仕組みづくりを、広く生産活動に携わる方々の意見を集約して、時代に即応し、求められている農業の在り方を農業委員会として建議し、政策提案しなければならない重要な時期であることを自認して、永続的な岩美町農業の発展に寄与しなければならぬと考えております。

農業は生命産業とも云われていますが、「食の乱れ」を正し、「食の重さ」を今一度、地域全体が反省して、地産地消、知消費産等で活力ある地域農業により、よみがえる岩美町農業を目指してみようではありませんか。

農業委員の

役割と役目

橋本 猶市



私は最近の農業政策はあまりにも偏った政策だと思っています。

す。つまり、小規模農家は要らない、大規模農家に集約すればいいというような政策ばかりで、小規模農家の多い本町の農業ですが、農家はこう思っているのでしょうか。稲を作っても赤字になる事はあっても黒字に

なる事はありません。このことが、個人農家が耕作を放棄する原因の一つだと考えます。

国は今ようやく自給率の向上に動いているようですが、こんな事は以前から分かっている事だと思っています。燃油の高騰が続く今、漁業者は一齐に燃料補助を要求していますが、農家は何かも要求していません。日本の基幹産業である農業に何も助成しないのは、農家が何も要求しないからでしょうか。それなら要求したいと思います。農地を守り、後継者を守り、育てることを、やはり、大規模農家はもとより小規模農家を見守って、耕作を放棄することのないようにしていきたいです。それには政策の改革を要求して行きます。政府の考案で個人には無理と考えるなら、せめて集落単位で申請し、それに基づいて助成してもらい、その中で年寄りでの農作業が出来なくなった農家は助成金を戴き、集落で共同して作業をし、放棄地をなくするようにします。又、互助精神で農地を守ることも出来るのではないのでしょうか。今後、近い将来、食糧不足の時代が来るかもしれません。手遅れのないように頑張りたいと思います。



注目

講演会のお知らせです!!

【日時】 11月1日(土) 午前10時~午前11時

【場所】 岩美町中央公民館講堂

【講演内容】 演題『再考』日本の「食」と「農」について

鳥取県農業会議会長 食農教育研究家 川上一郎さん

(第8回いわみフレッシュフェスティバルのイベントの一つです)

多くの方のご参加をお待ちしております!!

